

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 28 年前期 **Tadamitsu Kishimoto International Travel Award**
研究発表報告書

申請者氏名	安達 悠	会員番号	031077
申請者の 所属・職名	国立感染症研究所 免疫部		
出席会議名	16th International Congress of Immunology		
発表論文 タイトル	Distinct germinal center selection at local sites shapes cross-protective memory B cell response to viral escape		

実施結果:

この度は Tadamitsu Kishimoto International Travel Award に採択していただき、誠にありがとうございました。

私は2016年8月20日～26日にオーストラリアのメルボルンで開催された国際免疫学会2016 (ICI2016)に参加し、インフルエンザウイルスに対する交差防御抗体応答に関する研究成果を口頭発表させていただきました。

今回の国際免疫学会では、一般的な招待シンポジウムに加え、多数の応募演題がショートシンポジウムとして発表されていました。国際学会に初めて参加した私にとって、こんなにも大勢の免疫研究者が世界から集まり、熱く討論が繰り広げられている会場に圧倒されるばかりでした。シンポジウムの内容に関しては、私が研究対象とする感染症の演題が多数発表されており、感染症の克服という重要なアウトプットとしてだけでなく研究のアプリケーションとしてこれから更に盛んになっていく研究分野のひとつであると感じました。それらシンポジウムにおいては興味深い報告を聞くことができ大変勉強になったばかりでなく、海外の研究者の方々の口頭発表を多数聞いていく中でその発表に込められた強いメッセージ性やそれを伝える上での論理、発表展開には私が未だ持ち合わせていない点が多くあり、今後研究を進めていく上での大きな課題を痛感いたしました。

私自身は学会最終日の「B cell 4」というセッションにおいて「Distinct germinal center selection at local sites shapes cross-protective memory B cell response to viral escape」という演題名で口頭発表を行う機会をいただきました。初めての国際学会参加ということもあり緊張が最高潮の中での発表であり、普段の学会発表にはない達成感と課題を得ることができ、もっとおもしろい研究を、もっと良い発表を、という強いモチベーションになっています。

最後になりますが、このような貴重な体験をする機会を与えてくださいました岸本忠三先生、選考委員の先生方、また推薦してくださいました高橋宜聖先生に厚く御礼申し上げます。

本賞のご支援により得ることのできた刺激的な経験を礎に、日々努力精進致します。